

## 中間時代

□この学び全体のアウトライン

### 第一部 神の歴史計画から見る中間時代

#### 第一章 中間時代とは

#### 第二章 神の歴史計画

### 第二部 反キリストの予表

#### 第一章 反キリストの予表に関する預言

#### 第二章 歴史的成就=アンティオコス4世・エピファネス

#### 第三章 宮きよめの祭り (ハヌカ)

### 第三部 宮きよめの祭りでのメシアの教え

#### 第一章 イエスの神性宣言と光の奇跡との関係 (ヨハネ 10 : 22~39)

#### 第二章 「光の中を歩む」 (Iヨハネ 1 : 5~9)

□本日の内容 (前回の続きです。資料の内容は、前回と同じです)

- エルサレムは、イスラエルの王ダビデとその子ソロモンによって建設された都です。そのエルサレムを最初に支配した異邦人は、バビロニアのネブカデネザル王でした。そして、神の歴史計画の中で、エルサレムの支配者は、バビロニアからメディア・ペルシヤ、そしてギリシヤへと移り、最後は「第四の国」です。
- 第四の国は、歴史上、まず「古代ローマ帝国」として出現しました。ローマの法制度、統治組織、軍団編成、そして国家観といった、その中核的な要素は、その後の覇権諸国に引き継がれ、今もなお脈々と生き続けています。聖書の預言では、「ローマ」とは言わずに、「第四の国」と呼ぶのは、そのためであろうと思われます。つまり、古代ローマ帝国から現代に至るまで、第四の国の時代が続いているのです。
- 第四の国の時代の末期が、7年間の大患難期です。この大患難期をもって第四の国の時代は終わり、地上にメシアの王国が建てられます。
- バビロニアから第四の国まで、4つの覇権国家には、一つの大きな共通点があります。それは、すべて首都が「バビロン」であるということです。
  - バビロニアの首都は、バビロンです。
  - メディア・ペルシヤの居城があった場所は、スサ (シュシャン) です。しかし、バビロニアを打倒した後も、首都はそのままバビロンとしました。
  - ギリシヤのアレキサンドロスがマケドニアの王でしたが、ペルシヤを征服した後はバビロンを王都とし、そこで32歳の人生を終えました。
  - 第四の国の最後の王は、反キリストです。大患難期の後半3年半に全世界を支配する王となります。このとき首都はバビロンになると、聖書は預言しています。
- 世界史は、エルサレムとバビロン、この二つの町を軸に展開されていきます。本日は、神の歴史計画の全体像を、ダニエルの預言から学びます。

## 第一部 神の歴史計画から見る中間時代

## 第二章 神の歴史計画

1. バビロニアのネブカデネザル王が見た夢、ダニエルによる解き明かし(ダニ 2:20~45)
  - (1) この夢のテーマ(ダニ 2:29)
  - (2) 一つの大きな像=4つの国(ダニ 2:31~43)
    - ① 頭(純金)=バビロニアのネブカデネザル王
    - ② 胸と両腕(銀)=ネブカデネザル王よりも劣るもう一つの国
    - ③ 腹ともも(青銅)=第三の国
    - ④ すね(鉄)・足(一部は鉄、一部は粘土)=第四の国
    - ⑤ 一つの石が人手によらずに切り出され、その像の足を打ち、これを打ち砕く。  
その像を打った石は大きな山となって全土に満ちる。
      - 石=メシア
      - 大きな山=メシアの王国、神の国
  - (3) 神の国(ダニ 2:44~45)
2. ダニエルが見た夢、四頭の獣の幻(ダニ 7:1~14)
  - (1) 四頭の獣=4つの国(ダニ 7:1~7a)
    - ① 獅子のようで、鷲の翼をつけていた。その翼は抜き取られ、地から起こされ、人間のように二本の足で立たされて、人間の心が与えられた(ダニ 4章)
    - ② 熊に似たほかの第二の獣。横ざまに寝ていて、その口のきばの間には三本の肋骨があった。「起き上がって、多くの肉を食らえ」との声がかかった。
    - ③ 突然、ひょうのような獣が現れた。その背には四つの鳥の翼があり、その獣には四つの頭があった。それに主権が与えられた。
    - ④ その後また、突然、第四の獣が現れた。それは恐ろしく、ものすごく、非常に強くて、大きな鉄のきばを持っており、食らって、かみ砕いて、その残りを足で踏みつけた。
  - (2) 第四の獣の時代、その最終段階は、十本の角と小さい角が登場する時期(ダニ 7:7b~11)
    - ① 世界は10人の王による分割統治のもとにある。
    - ② 小さい角=後から台頭してくるもうひとりの王、反キリスト
    - ③ 反キリストは3人の王を倒す。
    - ④ 反キリストの結末(11節)
      - 「殺され」・・・再臨のメシアによって殺される(Ⅱテサ 1:8)
      - 「からだはそこなわれて」・・・遺体は放置される(イザヤ 14:19)
      - 「燃える火に投げ込まれる」・・・復活の体を与えられて、硫黄の燃えている火の池(=ゲヘナ)に投げ込まれる(黙 19:20)
  - (3) 12節 残りの獣は、主権を奪われたが、いのちはその時と季節まで延ばされた。

→ 第一から第三までの国の影響は、第四の国に受け継がれる。黙示録 13 : 1~2 では、反キリストの国は、「(体は) ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口は獅子の口のようにであった」とされる。

(4) メシアの国 (ダニ 7 : 13~14)

3. ダニエルが見た幻の解き明かし (ダニ 7 : 15~28)

(1) 総括 (15~18 節)

- ① これら四頭の大きな獣は、地から起こる四人の王 (=四つの国) である。
- ② しかし、いと高き方の聖徒たち (=イスラエル民族) が、国を受け継ぎ、永遠に、その国を保って、世々限りなく続く。(神が定めた期間を欠けることなく)

(2) 第四の獣についての確認 (19~22 節)

- ① 頭には、10本の角がある。
- ② もう一本の角が出て来て、そのために3本の角が倒れる。
- ③ その後から出て来た角には、目があり、大きなことを語る口があった。
- ④ その角は、出て来たときは「小さい角」であった(8節)が、3本の角を倒したあとは、「ほかの角よりも大きく見えた」(20節)
- ⑤ その角は、聖徒たち (=イスラエル民族) に戦いをいどんで、彼らに打ち勝つ。しかし、それは、神が来られるまでのことであって、神の聖徒たち (=イスラエル民族) のために、さばきが行われ、聖徒たちが国を受け継ぐ時が来る。

(3) 第四の国から神の国へ移行する時期についての預言 (23~27 節)

- ① 第四の国は、5つの段階を経る。今は東西のパワーバランス、第2段階である。
  - 古代ローマ帝国 (鉄のように強い)
  - 東西に分裂、パワーバランスの上に成り立つ国際社会の段階 (2本のすね)
  - 全世界統一政府 (鉄と粘土の足の状態)・・・「全土を食い尽くす」(23節)
  - 10の地域に分けての分割統治 (10本の角)・・・大患難期に入るときはこの段階。10人の王とは別に、もうひとりの王が立つ。反キリストである。イスラエルは彼と7年間有効な条約を結ぶ (ダニ 9 : 27)。その条約締結が大患難期の開始。
  - 大患難期が3年半経過したときに、反キリストは3人の王を倒す。彼は残る期間、「ひと時とふた時と半時の間」=3年半、イスラエル民族を滅ぼし尽くそうとする。この期間は 反キリストによる世界支配の段階 である。(24b~25)。これは、第四の国の第5段階、最終段階である。このとき、その都はバビロンに置かれる。
- ② 神のさばきが行われ、反キリストの主権は奪われて、彼は永久に絶やされ、滅ぼされる。国は、神の聖徒である民=イスラエル民族に与えられる。(26~27節)

(4) ダニエルの結語 (28 節)

4. ダニエルが次に見た幻、雄羊と雄やぎの幻（ダニエル 8：1～8、20～22）
  - (1) 2本の角を持つ雄羊＝メディアとペルシヤ
  - (2) 著しく目立つ1本の角を持つ雄やぎ、地には触れずに、全土を飛び回って、西からやって来る。＝ギリシヤ、第一の王（アレクサンドロス大王）
  
5. 天使からのダニエルへの啓示（ダニエル 10：10～11：4） ペルシヤの王クロスの時
  - (1) なお三人の王がペルシヤに起こり、第四の者は、ほかの誰よりも、はるかに富む者となる。（エステル 1：4、紀元前 483 年）
  - (2) この者がその富によって強力になったとき、すべてのものを動員してギリシヤの国に立ち向かわせる。（紀元前 480 年海戦・479 年陸戦 敗北→エステル 2：21）
  - (3) （ギリシヤの国では、後になって）ひとりの勇敢な王が起こり、大きな権力をもって治め、思いのままふるまう。しかし、彼が起こったとき、その国は破れ、天の四方に向けて分割される。それは彼の子孫のものにはならず、また、彼が支配したほどの権力もなく、彼の国は根こそぎにされて、その子孫以外のものとなる。  
→アレクサンドロス大王 紀元前 336 年（20 歳）～323 年（32 歳）

□まとめ

四つの国に関するダニエル書の預言（4つの国の都は、すべてバビロン）

	一つの像（2章）	四頭の獣（7章）	雄羊と雄やぎ（8章）
第一の国	頭（金）＝バビロニヤ	獅子、鷲の翼	
第二の国	胸と両腕（銀）	熊	雄羊＝メディア・ペルシヤ
第三の国	腹ともも（青銅）	ひょう	雄やぎ＝ギリシヤ
第四の国	すね（鉄）と足（鉄・粘土）	第四の獣	

中間時代は、ペルシヤ→ギリシヤ→第四の国と国際社会が大きく変動していく時期である。

□次回の内容・・・第三の国ギリシヤの時代に起きた事

1. 紀元前 332 年 アレクサンドロスがエルサレムに平和的に入城（ゼカ 9：1～8）
2. 紀元前 323 年、アレクサンドロスがバビロンで死去。享年 32 歳。その後、ギリシヤ帝国は、四つに分裂。四つの国の中で、最初にイスラエル地域を支配したのは、南のエジプト（プトレマイオス王朝）。
3. 紀元前 198 年に北のシリヤ（セレウコス朝）が、エジプトを破って、イスラエル地域の支配者となる。
4. このシリヤから、ひとりの王が、反キリストの予表として登場する。アンティオコス・エピファネス（在位 175－164 B.C.）

次回は第二部、「反キリストの予表」に関する預言とその成就について、です。